

世界文化遺産

国宝

姫路城

特別史跡姫路城跡

[ご利用案内]

- 通常期（9月1日～4月26日）開城時間／9時～17時（入城は16時まで）
- 夏季（4月27日～8月31日）開城時間／9時～18時（入城は17時まで）

入城料 大人／1,000円 小人／300円（小学生～高校生）

休城日 12月29日・30日

〒670-0012 兵庫県姫路市本町68番地 姫路城管理事務所 TEL.079-285-1146

<http://www.city.himeji.lg.jp/guide/castle/>



ベビー・子供用品専門店チェーン

西松屋チェーン

全国のお子様を持つご家庭の
豊かな暮らし作りに貢献していきます

全国に**890**店舗以上 東証一部上場企業
本部 〒671-0218 姫路市飾東町庄266-1 TEL.079-252-3300

編集・発行 姫路城管理事務所 平成27年3月20日 第1版 第1刷発行



いま白鷺の“天守閣”がよみがえる。

天を突くように威風堂々とそびえる、白く輝く大天守。その圧倒的な姿は、白い鷺が舞い立つように見えることから、別名「白鷺城」と呼ばれています。昭和の大修理から45年。「平成の修理」と呼ばれた大天守保存修理工事は、かけがえのない世界文化遺産・国宝を築城時そのままの美しい姿で次の世代へ引き継ぐため、漆喰壁の塗り替えや屋根瓦の葺き直しを中心に約5年をかけて行われました。



工事の間、城を風雨から守るための素屋根。実物大の姫路城を描いたメッシュシートを外壁に貼り、景観にも配慮しました。



姫路城の美しさの象徴でもある漆喰壁。外部に現れたすべての表面を漆喰で仕上げる白漆喰総塗籠造(しろしっくいそうぬりごめづくり)という工法が用いられています。消石灰、貝灰、すさ、海藻などを材料とする古代からの伝統工法を継承するもの。薄く何度も塗り重ねることで、その厚さは3cmにも及び、これにより火災や風雪から城を守っています。

懸魚(げぎょ)は、屋根の妻の頂点に取付ける棟木や桁の先を隠すための飾り板です。解体前には既存実測・原寸図に基づいて、懸魚の漆喰仕上用の原寸型板を製作します。詳細に記録することで、その技術や伝統を後世に引き継ぐことも修理目的のひとつです。写真は、化粧直しされた三重屋根東西面の三花蕪(かぶら)懸魚。



◆主な工事

天守閣 屋根修理	●全面葺き直し ●瓦留め(釘または銅線による補強) ●目地漆喰の全面補修
漆喰塗り替え	●一～四層 表面の漆喰塗り替え ●五層 下地からの修理 ●軒先、破風、懸魚等は上塗り修理または下地から修理
木工事他	●1～6階床板、窓補修
構造補強	●地下1,6階部分の耐震性向上のため柱補強ほか
素屋根仮設	●高さ 約52m、巾45×46m、 建築面積2075㎡、延床面積8315㎡
総工費	●約24億円
関わった職人の数	●延べ1万5千人(仮設除く)

◆平成の修理工事の様子



最上層の本瓦葺きの様子です。平瓦を葺いた後、決められた量の葺き土を置き丸瓦を伏せていきます。

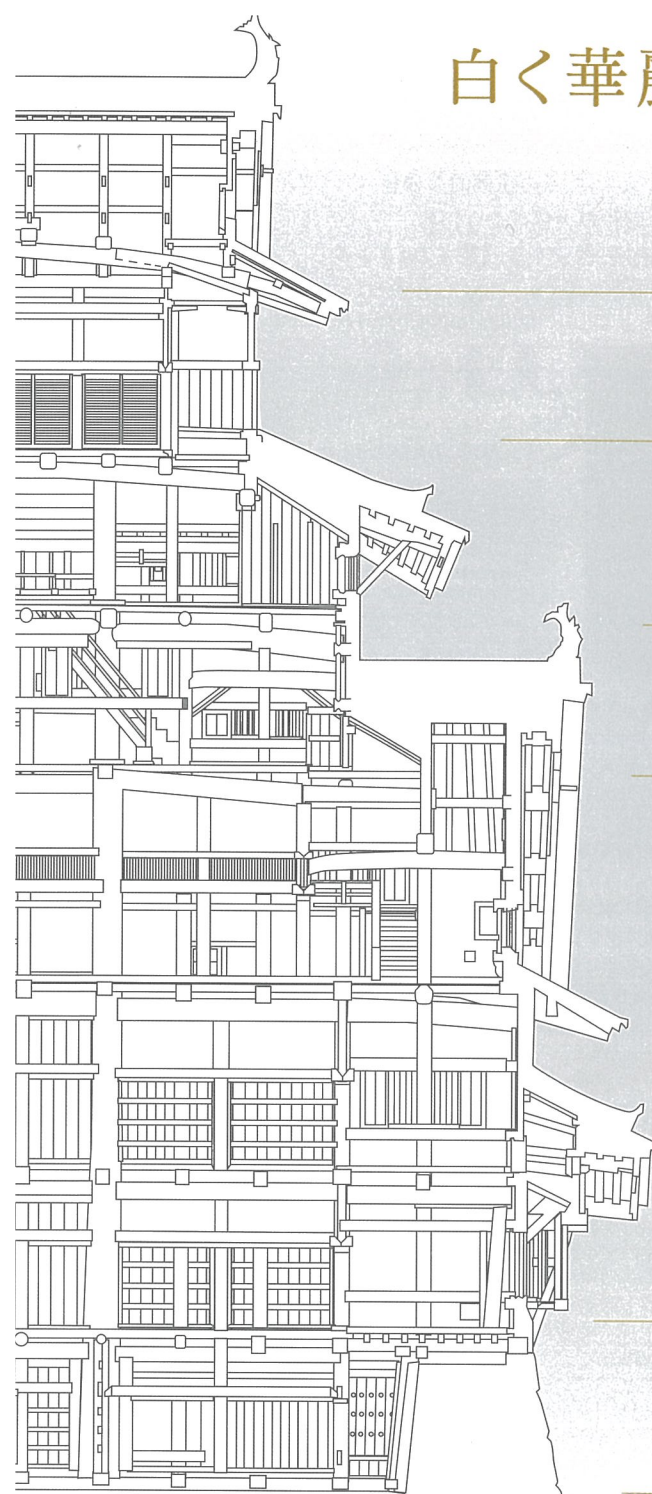
土壁において、荒壁土を塗付後、十分な乾燥をさせてから、第一層目の斑直しを行っています。



五重屋根の兎毛通懸魚の漆喰上塗り作業です。専用の特殊な鏝で細部を塗り込んでいきます。

白く華麗な大天守内の見どころ。

日本最高峰の木造建築にして、世界でも類を見ない美的完成度を誇る姫路城。城郭建築では外観の屋根の数を「重」、内部の階段を「階」で表します。大天守も外から眺めると一見して、5階建てに見えますが、内部の造りは地上6階・地下1階の7階構成になっています。



“幻の窓”

六階

6階は壁面すべてに窓が開けられる予定でしたが、築城途中で設計が変更され、4隅の窓を塞いだことがわかりました。

西大柱

五階

東西2本の大柱の最頂部で、地階から5階の梁まで通柱となっています。柱が梁を受ける接合部分は、昭和の大修理の際に鉄板で補強しています。

高窓(煙出し)

四階

籠城の際に射撃をすると、室内に硝煙が充満します。それを排出するための高窓です。

武者隠し

三階

建物の四隅に伏兵を配置する空間があり、内部には狭間が設けられています。

破風の間

二階

天守入口に架かる入母屋破風の屋根裏の空間です。格子窓の一つは開閉できるようになっています。

六葉釘隠し

一階

長押などに出ている釘の頭部を隠すための装飾。6枚の葉をデザインしていて、葉と葉の間に猪目と呼ばれるハート型の隙間ができます。

流し

地階

具体的な用途は不明ですが、この下は中央部に水が集まるように傾斜していて、そこに集められた水が北側の内庭に排出されるようになっています。



長壁(刑部)神社

姫山の地主神で、近代になって天守内で祀られるようになりました。江戸時代には、との二門との三門の間の小高い場所に鎮座していました。

Check! 隠れ見どころ



埋木 昭和の大修理の際、長押の板にある節を削り取り、そこにいろいろな形をした埋木を施しています。



東大柱

昭和の大修理前、本来の東大柱の中心線から東南方向に約37cm傾いていました。江戸時代の初めは、大柱そのものが建物の重さなどで歪んで変位したようですが、次第に建物全体が傾いたため、多くの支柱を入れて補修をしてきました。

Check! 隠れ見どころ



刻み番付 破風の間を見上げると、南北の破風の棟木に番付の文字が彫ってあります。この部材がどこに使用されるものかを示しています。



石打棚

東西に大千鳥があり、窓の位置が高くなっているため、窓が使えるように石打棚を設けています。



内室

3階は南に唐破風が付くため、窓の位置が破風の上に開いています。窓の位置が高くなるので、南北に石打棚を設けています。北側では石打棚の下で武者走りを内陣と板で仕切って、内室のような造りにしています。



武器掛け

大天守には多くの武器掛がありました。天守が武器倉庫としても使われていたことを示しています。

Check! 隠れ見どころ



石落し

大天守1階隅の3ヵ所に石落としがあります。大天守石垣に取り付く敵に石を落したり、射撃のための設備です。



厠

大天守の地階には2ヵ所の厠がありました。それぞれ3つの便座があり、備前焼の大かめが埋められていましたが、実際に使用された痕跡はありませんでした。

二重の扉 天守への出入口は4ヵ所で、そのうち2ヵ所が1階にあります。どの出入口も外側と内側の扉により二重の防御が施されています。扉は門で戸締りをするので、すべてに門をかけることと天守へ入ることができません。

姫路城 HISTORY

築城以来400年、姫路の地に砦が築かれてから600年を超える歴史を刻み、
未来への遺産として大切に受け継がれるべき姫路城。
数多くの国宝、重要文化財をはじめ、姫路城を舞台に繰り広げられた多彩なドラマを紐解きます。

1333年 赤松則村(円心)、護良親王の命により拳兵
元弘3年 京に兵をすめる途中、姫山に砦(とりで)を築く

1346年 赤松貞範、姫山に本格的な城を築く
貞和2年

1441年 山名持豊、播磨国を与えられ姫路に入る
嘉吉元年

1467年 応仁の乱 赤松政則、姫路城を陥落し、領国
応仁元年 を回復 本丸、鶴見丸を築く 後に一族の
小寺氏、その重臣の黒田氏が城をあずかる

1545年 黒田重隆が小寺氏の命により姫路城を任せられる
天文14年

1546年 黒田孝高(官兵衛)、姫路城で誕生
天文15年



黒田 官兵衛
(福岡市美術館蔵)

黒田孝高(官兵衛)、御着城主小寺家家老で姫路城主・黒田職隆の嫡男として姫路城で生まれる。織田信長に反逆した荒木村重との戦いで有岡城に脱出に向き、1年間の受牢。播磨に進出した羽柴秀吉の軍師として中国攻めなどに戦略的手腕を発揮する。

1580年 羽柴(豊臣)秀吉が黒田孝高(官兵衛)の
天正8年 勧めて入城



羽柴 秀吉(京都市 光福寺蔵)

中国毛利勢討伐の武将として播磨入りし1580(天正8)年正月、三木城の別所長治を滅ぼし、播磨を平定。その後、黒田孝高の進言を受け、同年4月、毛利氏攻略の拠点として姫路に入る。1583(天正11)年に大坂城を築くまで3年間姫路城主。

1581年 秀吉、姫路城に三重天守を築く
天正9年

1583年 秀吉が大坂城へ移り、弟・羽柴秀長が入封
天正11年

1585年 秀吉の正室(北政所)の兄・木下家定が入封
天正13年

1600年 関ヶ原の戦の後、池田輝政が姫路城主に
慶長5年



池田 輝政
(姫路市 圓教寺蔵)

戦国武将・池田恒興の次男。小牧・長久手の戦で父と兄が戦死し、父の後を継いで大垣城主。その後、岐阜城に移る。秀吉の小田原攻め、会津攻めに参戦。1594(文禄3)年に秀吉の仲介で徳川家康の次女・督姫と結婚。その後、関ヶ原の戦いで武功が認められ、播磨52万石で姫路城主となる。

池田輝政、姫路城大改築開始

1601年 五重7階の連立式天守が完成
慶長6年

1609年 本多忠政が伊勢国桑名から嫡男・忠刻、千
慶長14年 姫とともに入封



本多 忠政(本多大將氏蔵) 千姫(常総市 弘経寺蔵) 父は、徳川四天王の一人、本多忠勝。秀吉の小田原攻めや関ヶ原の戦いに参戦。大坂の陣の戦功により、姫路に転封となる。2代将軍徳川秀忠の長女・千姫は、7歳で豊臣秀頼と結婚。大坂夏の陣で大坂城から脱出。1616(元和2)年、本多忠刻に再嫁し、姫路城で10年過ごす。

1618年 本多忠政、鷺山に西の丸を築く
元和4年

1639年 松平忠明が大和国郡山から入封
寛永16年

1648年 松平直基が出羽国山形から入封
慶安元年

1649年 榊原忠次が陸奥国白河から入封
慶安2年

1667年 松平直矩が越後国村上から入封
寛文7年

1682年 本多忠国が陸奥国福島から入封
天和2年

1704年 榊原政邦が越後国村上から入封
宝永元年

1741年 松平明矩が陸奥国白河から入封
寛保元年

1749年 酒井忠恭が上野国前橋から入封
寛延2年 城下大洪水の被害

1808年 家老・河合道臣(寸翁)が財政改革に着手
文化5年



河合 道臣 像

1787(天明7)年、21歳で家督を継ぎ、姫路藩家老に。1808(文化5)年、ときの藩主酒井忠道から負債73万両に膨らんだ姫路藩財政の立て直しを命じられる。姫路木綿の江戸専売権取得や様々な藩営事業を行い、1834(天保5)年には負債を完済。

1867年 大政奉還
慶応3年

1868年 酒井忠邦、版籍奉還を申し出
明治元年

最後の藩主となった酒井忠邦が天皇に領地と領民を返還する「版籍奉還」を発案。1869(明治2)年姫路藩知事に任じられたが、同4年廃藩置県により、姫路藩は廃止されて姫路県が置かれた。

1873年 姫路城、存城が決定
明治6年

全国城郭存廃・処分並兵営地等撰定方(鹿城令)が発せられ、姫路城は名古屋城や熊本城などとともに全国56の存城の一つに加えられることになった。



1874年 歩兵第10連隊の1中隊、姫路城内仮営所へ移転
明治7年

1889年 姫路市誕生
明治22年

1910年 明治の大修理開始(～明治44年)
明治43年

1931年 姫路城天守閣、国宝(旧国宝)に指定
昭和6年

1934年 昭和の大修理開始
昭和9年

1945年 姫路空襲
昭和20年 太平洋戦争の2度の空襲で姫路のまちは焦土となるが、姫路城は奇跡的に生き残る。



1950年 昭和の大修理再開
昭和25年

1951年 姫路城天守など8棟、国宝に指定
昭和26年

1952年 姫路城中濠以内、特別史跡に指定
昭和27年

1956年 大天守等の解体修理開始(～昭和39年)
昭和31年



1993年 日本初の世界文化遺産に登録
平成5年

外観の美しさと城としての実用性を兼ね備え、日本の木造城郭建築の代表例としてユネスコの世界遺産リストにその名が登録された。

2009年 大天守保存修理工事着工(平成の修理)
平成21年

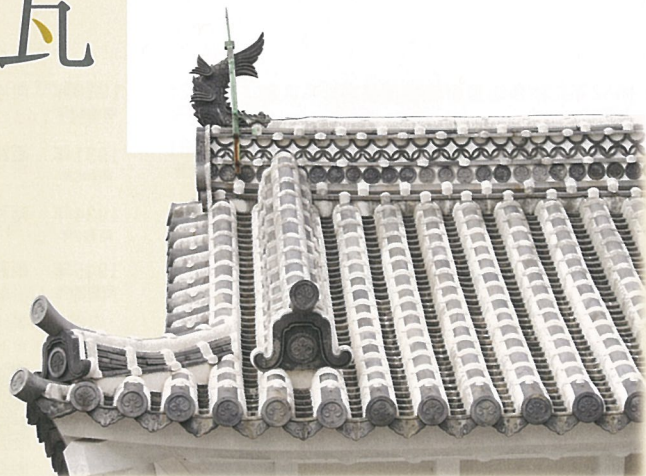


2015年 大天守保存修理工事終了
平成27年

戦いへの知恵を秘めた美しい仕掛け。

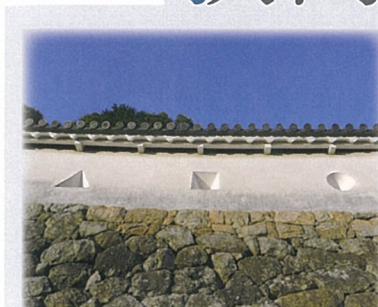
姫路城の瓦は、平瓦と丸瓦を交互に組み合わせた本瓦葺で、継ぎ目には屋根目地漆喰が一面に施され、葺(いらか)の美を表現しています。歴代城主の修理の歴史を物語るがごとく、鬼瓦、軒丸瓦などに多様な城主の家紋などが残っています。現存するものだけを数えても8種類あります。

瓦



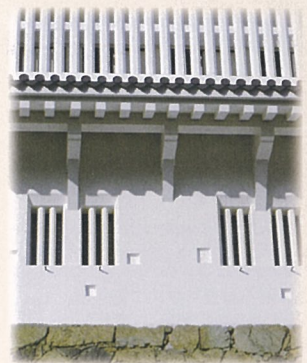
狭間

狭間とは、天守や櫓、土塀の壁面に開けられた矢や鉄砲を放つための穴のことで、城を防衛するための重要な仕掛けでした。一般的には丸形や三角形、正方形(鉄砲用)、縦長方形(弓・矢用)の4種類。現存する狭間の数は997ヵ所。開けられた位置によって立狭間、居狭間、寝狭間とも呼ばれるが、姫路城は片膝を突いて鉄砲を撃つ時に使われる居狭間が数多く見られます。



窓

天守の窓は敵の侵入や矢玉を防ぐため、太い格子がはめられた幅半間の格子窓になっています。乾・西小天守には、黒漆塗り、金箔金具で飾られた装飾性の高い火灯窓(かとうまど)があります。この窓は、本来は禅宗寺院の仏殿など寺院建築に用いられ高貴な建築物の象徴として使われました。



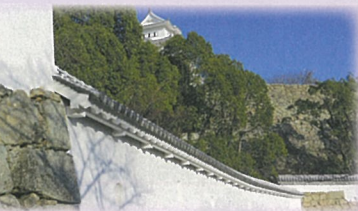
門

姫路城には、菱の門、「いろは…る」の門、「水の…六」の門、備前門が現存しており、その様式は実にさまざまです。防備面から頑丈さを重視した柵門や木戸、塀重門、冠木(かぶき)門、高麗門、櫓門、長屋門、埋(うずみ)門など、安土桃山時代の様式を残す門など21門が残っています。



羽柴秀吉時代のものと伝わる珍しい油塀。山土に豆砂利を加え、もち米のとき汁やおかゆで固めたといわれています。

塀



姫路城には、重要文化財に指定された32の土塀が残っています。当時は、木造の骨組みを持つ土塀が主流でしたが、姫路城ではあらかじめ一定の大きさに作られた粘土の塊を粘土で接着しながら積み上げ、屋根部分のみ木造で組立てられています。外側は白漆喰で美しい仕上がりになっています。

姫路城DATA

◆所有者
文部科学省(文化庁)

◆管理団体
姫路市

◆文化財建造物数
国宝8棟
(大天守、東・乾・西小天守、イロ・ハ・ニの渡櫓)
重要文化財74棟(櫓27棟、門15棟、塀32棟)

◆大天守の高さ
海拔91.9m
(姫山の高さ45.6m、天守台高さ14.8m、大天守高さ31.5m)

◆大天守の重さ
5,700t(推定)

◆東・西大柱の長さ
24.6m(西大柱は、当初は上部が樺材、下部が樺材でしたが、昭和の大修理で、上部は笠形神社樹齢650年の櫓、下部が木曾山中の樹齢765年の櫓に取り替えられました。東大柱は当初から樺材で、根継部分は台湾櫓に替えられましたが、それ以外は当初のままの樺材です。)

◆櫓の数
27棟(イロ・ハ付及び化粧櫓、井郭櫓、帯の櫓、帯郭櫓など)

◆西の丸櫓群延長
約240m

◆帯の櫓石垣の高さ
23.32m(姫路城で一番高い石垣)

◆門の数
21棟(櫓門7、高麗門6、棟門4、埋門4)

◆狭間の数
997(鉄砲狭間844、矢狭間153)
※「わたし達の姫路城」黒田純・中野みゆき、森谷瑛子共著による。

◆井戸の数
11ヵ所

◆主な土塀の長さ
ろの門西南方土塀 140.0m
いの門東方土塀 106.2m
太鼓櫓南方土塀 92.3m
菱の門東方土塀 88.7m
力の櫓北方土塀 70.9m

◆ 千姫物語

川家康の孫娘千姫は、7歳で大坂の豊臣秀頼のもとへ輿入れしました。しかし、秀吉死去の後、大坂夏軍で夫・秀頼は自害し、豊臣家は亡。千姫は燃えさかる炎の中か助け出されました。江戸城へ帰る中、警護にあたっていた本多忠政息子・忠刻と再婚。千姫20歳、忠21歳。千姫の化粧料(持参金)10石で、姫路城三の丸には武蔵野殿と呼ばれる千姫の屋敷が建てられたといわれ、城内の池泉回遊式園や高砂沖に船を浮かべ、仲良く歌を楽しんだとの話も。勝姫と幸千が一男一女にも恵まれ「千姫は、夫・刻と暮らした姫路城での生活(10間)が生涯で一番幸せだった」と今も語られています。しかし、長男・幸代が3歳のとき病で亡くなり、5年後、夫・忠刻も31歳の若さで病にれます。江戸へ帰った千姫は、髪をろして「天樹院(てんじゅいん)」と号し、や息子を想いながら竹橋御殿で余を送り、70年の生涯を閉じました。



粧櫓
姫がこの櫓を休息所としたことが名称由来。部屋には極彩色の豪華な装飾がされていました。



の丸櫓群・長局(百間廊下)
山に建てられた西の丸の外周をめぐる櫓群。原生林を活かし、自然の地形にわせて延々と続く珍しい建物。背後の室や狭間を見ると厳重な防備を持滅郭であることがわかります。



菱の門
表玄関にふさわしく格式高い櫓門。片側だけ石垣に乗る珍しい安土桃山様式の城門。正面の冠木に名前の由来となっている木製の「花菱」が飾られています。



三国堀
姫山と鷺山の間に設けられた四角い堀。二の丸につながる「いの門」と「るの門」の要所をおさえる重要な位置にあります。



菱の門東方石垣
石垣上部の塀は白漆喰で塗籠められ、防火作用もあります。菱の門右側から上山里曲輪へ続く漆喰壁は、地形に沿って築かれているため美しいカーブを描いています。



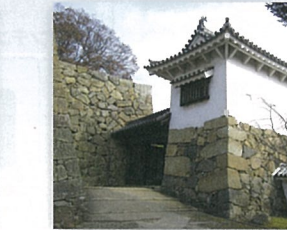
十字紋瓦
「いの門」の破風上に残る十字紋瓦。キリシタンだった黒田官兵衛にゆかりがあるともいわれています。



扇の勾配
開いた扇の曲線に似ていることから「扇の勾配」と呼ばれる石垣。上に行くほど反り返り、敵に石垣をよじ登らせないための工夫でもありました。



油壁
秀吉時代のものとされ、城内で1ヵ所だけ残る築地塀です。



太鼓櫓(への櫓)
上山里曲輪と東曲輪を区切る要所にあります。北に接するりの門からは「慶長4(1599)年」の墨書が見つかっており、池田時代以前の建物の可能性があります。



備前門
折廻櫓に続く切妻の櫓門で、備前丸への主要な出入口となる城門です。築城の際、石不足であったため、門のすぐ脇には石棺が転用されています。